

鶏 卵 需 給 等 関 係 資 料

平成 2 4 年 9 月

農林水産省生産局食肉鶏卵課鶏卵食鳥班

I 鶏卵の需給・価格等の動向

(1) 農業総産出額

平成22年における畜産の総産出額は2兆5,525億円で、養鶏は畜産の約3割に当たる7,352億円。このうち鶏卵は4,419億円。

<表-1 農業総産出額>

(単位：億円)

	60	2	7	19	20	21	22
農 業	116,295	114,927	104,498	82,585	84,662	81,902	81,214
畜 産	31,686	30,836	25,125	24,787	25,852	25,466	25,525
養 鶏	9,342	8,622	7,011	6,755	7,444	7,086	7,352
鶏 卵	5,099	4,778	4,096	4,019	4,501	4,207	4,419
養鶏／畜産	0.29	0.28	0.28	0.27	0.29	0.28	0.29

資料：農林水産省「農業総産出額及び生産農業所得」

注：22年の数値は概算値。

(2) 需給動向

- ① 昭和60年度の自給率は98%。近年は95～96%で推移。
- ② 23年度の生産量は東日本大震災の影響もあり、6年ぶりに250万トンを下回っている。。

<表-2 鶏卵需給の推移>

(単位：千トン)

年 度	60	2	7	12	18	19	20	21	22	23
需 要 量	2,198	2,470	2,659	2,656	2,630	2,702	2,646	2,605	2,619	2,621
生 産 量	2,160	2,420	2,549	2,535	2,509	2,589	2,535	2,505	2,506	2,483
輸 入 量	39	50	110	121	122	113	112	101	114	138

資料：農林水産省「食料需給表」

注1：23年は概算値。

2：4年1月より輸入の殻付き卵換算係数を変更。輸入量は殻付き換算。

(3) 消費動向

- ① 家計消費の占める割合が年々低下する傾向にあり、近年は概ね横ばい推移。
- ② 23年度における消費形態は、家計消費51.2%、業務・加工用48.8%。
- ③ 一人当たり消費量は世界でも最高の水準。

<表－3 一人1日当たり鶏卵消費量>

(単位：g/日・人、%)

年 度	60	2	7	12	19	20	21	22	23
家計消費量 ①	30.7	29.7	29.3	28.5	27.6	27.3	27.7	27.5	27.4
業務・加工用	16.2	22.2	25.8	26.2	27.4	26.8	25.7	25.8	26.1
総消費量 ②	46.9	51.9	55.1	54.7	55.0	54.1	53.4	53.3	53.5
①/②×100	65.5	57.2	53.2	52.1	50.2	50.5	51.9	51.6	51.2

資料：総務省「家計調査」、農林水産省「食料需給表」

注1：11年度以降の業務・加工用の数値は生産局推計。

注2：23年度は速報値。

<表－4 国別消費量の推移>

(単位：個/人・年)

国 名	1980	1985	1990	1995	2000	2006	2007	2008	2009	2010
カナダ	227	205	191	172	188	187	174	181	193	195
アメリカ	273	256	235	235	256	256	250	248	246	247
ドイツ	285	280	253	224	223	209	210	208	211	214
フランス	250	266	263	264	253	251	245	248	—	—
イタリア	191	200	217	219	218	219	224	224	215	210
オランダ	191	200	176	173	180	182	182	182	184	185
イギリス	235	212	169	169	173	173	178	183	180	182
スウェーデン	213	214	210	205	197	198	197	197	201	207
メキシコ	—	—	—	—	—	351	345	345	355	365
中国	—	—	—	—	—	340	349	333	344	295
日本	270	280	310	339	328	324	324	334	325	324
オーストラリア	214	183	148	152	156	155	166	196	194	198
ニュージーランド	—	—	192	202	207	216	218	225	228	230

資料：International Egg Commission 「International Egg Market Review」

(4) 輸入動向

輸入量は、国内の鶏卵需要や価格の動向、為替レート等の影響を受けながら変動しているが、全需要量の5%程度で推移しており、そのほとんど(約9割)は加工原料用の粉卵が占めている。

主な輸入相手国は、オランダ、アメリカ、イタリア等。

<表－5 鶏卵等輸入量（殻付き換算）>

（単位：千トン、％）

年 度	60	2	7	12	18	19	20	21	22	23
輸 入 量	38.6	50.0	103.9	120.7	121.5	113.3	112.2	100.8	114.0	137.8
前 年 度 比	132.2	111.6	105.4	101.4	80.5	93.2	99.0	89.9	113.1	120.9
輸入量(殻付き卵)	0.4	1.7	2.0	2.1	3.6	1.9	2.4	0.7	0.9	4.8

資料：財務省「日本貿易統計」

注：殻付き換算 3年度まで 卵黄粉3倍、全卵粉4倍、液卵1.2倍、卵白1.275倍

4年度以降 卵黄粉2.2倍、卵黄液1倍、全卵粉4.4倍、全卵液1.1倍、卵白粉8.6倍、卵白液1.2倍

<表－6 国別輸入量>

（単位：トン）

年 度	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24(4-7)
オランダ	24,558	27,572	26,547	22,940	24,520	27,166	23,407	26,422	37,246	8,888
アメリカ	16,591	22,056	46,202	29,657	18,277	19,517	19,274	23,339	31,399	6,934
イタリア	3,446	9,047	7,681	12,767	16,465	21,405	14,337	17,316	15,437	6,482
メキシコ	5,658	5,227	3,953	3,055	4,264	4,204	6,385	11,272	10,108	4,926
インド	9,340	12,687	9,530	10,186	13,279	10,905	8,356	8,721	8,580	3,691
ドイツ	7,057	9,024	7,263	7,251	5,881	5,202	4,676	6,223	8,537	2,039
フランス	8,386	10,546	6,716	4,535	4,844	4,496	2,219	3,042	4,479	1,666
そ の 他	35,447	38,182	43,070	31,114	25,751	19,303	22,161	17,667	22,063	5,011
計	110,483	134,341	150,961	121,506	113,281	112,198	100,815	114,001	137,847	39,638

資料：財務省「日本貿易統計」

注：殻付き換算は、卵黄粉2.2倍、卵黄液1倍、全卵粉4.4倍、全卵液1.1倍、卵白粉8.6倍、卵白液1.2倍

（５）経営状況

- ① 採卵鶏の飼養羽数は、小規模層を中心に毎年減少しており、24年2月1日現在の飼養戸数は2,810戸と前年比4.1%減少。
- ② 成鶏めす飼養羽数は、11年以降減少傾向で推移していたが、19年、20年は増加に転じたものの、21年以降は再び減少し24年は前年比1.4%減の135.5百万羽。
- ③ 一戸当たりの飼養羽数は一貫して増加しており24年は前年比2.8%増の48,200羽。
- ④ 24年における成鶏めす羽数規模5万羽以上層の飼養戸数は601戸（全体シェアの23.5%）、飼養羽数は110百万羽（全体シェアの81.3%）。

<表－7 採卵鶏の飼養動向>

		60	2	7	11	12	20	21	23	24
採卵鶏飼養戸数	千 戸	123.1	86.5	7.3	5.4	4.9	3.3	3.1	2.9	2.8
成鶏めす飼養羽数	百万羽	127.6	137.0	146.6	143.1	140.4	142.5	139.9	137.4	135.5
一戸当たり飼養羽数	千 羽	1.6	1.9	20.1	28.3	28.7	43.2	45.0	46.9	48.2

資料：農林水産省「畜産統計」、「家畜の飼養動向」（各年2月1日現在）

注：種鶏のみ飼養羽数を除く。3～9年は成鶏めす羽数300羽未満、10年以降は成鶏めす羽数1,000羽未満の飼養者を除く。

平成22年はセンサス年のため調査未実施

<表－8 成鶏めす飼養羽数規模別シェア>

(単位：%)

		60	元	6	10	11	20	21	23	24
300～	戸 数	15.7	14.2	11.8	—	—	—	—	—	—
	999羽	1.1	0.7	0.3	—	—	—	—	—	—
1,000～	戸 数	45.1	37.2	29.5	30.0	29.8	25.8	25.3	26.6	25.3
	4,999羽	13.1	7.8	3.5	2.5	2.3	1.3	1.2	1.3	1.2
5,000～	戸 数	19.6	19.8	18.0	18.3	18.2	16.1	16.7	16.5	16.0
	9,999羽	16.1	11.4	6.0	4.3	4.2	2.3	2.3	2.3	2.0
10,000～	戸 数	17.1	24.4	30.9	37.1	37.0	36.5	35.7	34.4	35.2
	49,999羽	39.7	38.9	31.6	28.1	27.3	17.9	17.3	16.5	15.5
50,000～	戸 数	2.5	4.5	5.5	7.4	7.5	9.6	9.8	9.8	10.7
	99,999羽	30.0	41.3	18.4	17.3	16.6	14.1	14.0	14.2	14.5
100,000羽～	戸 数	—	—	4.3	7.1	7.5	11.9	12.4	12.5	12.8
	羽 数	—	—	40.2	47.8	49.6	64.3	65.2	65.7	66.8

資料：農林水産省「畜産統計」（各年2月1日現在）

注：56～元年は、50,000～99,999羽以上層に100,000羽以上層を含む。

平成22年はセンサス年のため調査未実施

(6) 価格動向

- ① 鶏卵に対する需要は概ね横ばいで推移しており、かつ、約95%を国内で自給しているため、主な価格変動要因は、国内生産量の増減（わずかな需給バランスの変化が大きな価格変動につながる）。
- ② 価格の変動パターンは、毎年の季節的な需給バランスによる変動（季節変動）と、5～6年を周期の変動（エッグサイクル）がある。
- ③ 卸売価格は、22年度は、前年度の低卵価を踏まえ、生産者が需要に応じた生産に取り組んだこと等から、前年度を大きく上回って推移。23年度は、東日本大震災の発生により一時的に飼料供給が滞ったこと等から供給が減少し、卸売価格が上昇。その後、供給が回復したことから価格は概ね平年並みで推移。24年度（4-7月）は、年度当初から価格が軟調に推移し、5月21日から8月21日まで成鶏更新・空舎延長事業が発動。

<表－9 鶏卵価格の推移>

(単位：円/kg、%)

	60	2	7	12	19	20	21	22	23	24(4-7)
農家販売価格 (前年度比)	267	224	173	171	164	188	168	188	182	164
	115.8	124.2	114.7	93	94.1	114.7	89.2	112.1	97.0	82.0
卸 売 価 格 (前年度比)	279	241	197	185	167	193	175	193	188	166
	115.8	120.5	116.6	92.5	90.8	115.6	90.7	110.3	97.4	84.3
小 売 価 格 (前年度比)	350	344	296	310	210	227	216	224	224	209
	150.4	119.4	106.9	98.4	97.2	108.1	95.2	103.7	100.0	88.9

資料：農林水産省「農作物価統計」、全農たまご東京M相場、総務省「小売物価統計」

注1：小売価格は、14年7月よりMサイズ1kgからLサイズ10個に変更

(7) 配合飼料の生産動向

- ① 育すう用飼料の生産量は、え付け羽数の動向に対応して変動。23年度は対前年度比1.4%の減少。24年度（4～5月）は対前年同期比0.8%の増加。
- ② 成鶏用飼料の生産量は、16年度以降600万トンを下回る水準で推移。23年度は対前年度比0.6%の減少。24年度（4～5月）は対前年同期比0.1%の増加。

<表-10 配合飼料生産量の推移>

(単位：千トン、%)

	60	2	7	12	19	20	21	22	23	24(4-5)
育すう用飼料	980	882	829	763	749	727	734	727	717	121
対前年度伸び率	-1.8	-4.2	-0.6	-0.3	-1.1	-2.9	0.8	-0.8	-1.4	0.8
成鶏用飼料	5,977	6,175	6,244	6,053	5,823	5,657	5,636	5,615	5,582	934
対前年度伸び率	0.2	-1.3	0.3	-0.4	1.0	-2.9	-0.4	-0.4	-0.6	0.1
鶏卵生産量	2,160	2,420	2,549	2,535	2,589	2,535	2,505	2,506	2,483	-
対前年度伸び率	0.7	-0.1	-0.6	-0.2	3.2	-2.1	-1.2	0.0	-0.9	-

資料：農林水産省「食料需給表」、(社)配合飼料供給安定機構「流通飼料価格等実態調査」

(8) 配合飼料の価格動向

- ① 成鶏用配合飼料価格は、13年度以降、国際相場・円安の影響等から上昇傾向で推移。18年秋以降、とうもろこしのシカゴ相場が燃料用エタノール生産向け需要の増加等により上昇したことから、19年度は対前年度比20.5%、20年度は対前年度比13.6%の上昇。その後、とうもろこしのシカゴ相場や海上運賃の下落等により21年度は、対前年度比14.0%の低下。22年度は対前年度比0.7%の低下。22年夏以降、とうもろこし価格が再び上昇したことから23年度は、対前年度比9.2%の上昇。24年度(4-5月)は、対前年同期比1.4%減少となっているが、6月以降、主産地の干ばつによる作柄悪化懸念を背景にとうもろこしの国際価格は上昇。
- ② 配合飼料価格の上昇が畜産経営に及ぼす影響を緩和するため、①民間(生産者と配合飼料メーカー)の積立による「通常補填」と②異常な価格高騰時に通常補填を補完する「異常補填」(国と配合飼料メーカーが積立)の二段階の仕組みにより、生産者に対する補填を実施。

<表-11 配合飼料価格の推移>

(単位：円/トン、%)

	60	2	7	12	18	19	20	21	22	23	23(4-6)
育すう用飼料	51,738	38,290	31,501	31,390	40,965	49,989	56,749	47,951	48,056	52,655	51,951
対前年度伸び率	-11.9	-3.8	1.5	-0.7	8.1	22.0	13.5	-15.5	0.2	9.6	-1.3
成鶏用飼料	53,883	40,835	33,907	34,137	45,399	54,691	62,124	53,407	53,053	57,913	57,277
対前年度伸び率	-12.7	-3.8	0.4	-0.6	7.1	20.5	13.6	-14.0	-0.7	9.2	-1.4

資料：(社)配合飼料供給安定機構「流通飼料価格等実態調査」

注：バラ、工場渡し価格